Title	「美女と野獣」の読書像とその消失:19 世紀挿絵本における変遷
Author(s)	若松，昭子
Citation	聖学院大学論叢，第 27 巻第 2 号,2015:159 -179
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5212
Rights	

聖学院学術情報発信システム ： SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

〈原著論文〉

「美女と野獣」の読書像とその消失
――19 世紀挿絵本における変遷――

若　松　昭　子

抄　録

本研究では，19 世紀の挿絵本に描かれた様々な読書像の検討を通して，ボーモン夫人原作の「美女と野獣」に込められていた読書啓発メッセージがどのように変遷を遂げたのかを考察した。その結果，以下の事柄が浮かび上がった。

19 世紀には，子どもの本に対する二つの立場，すなわち教育重視の立場と娯楽重視の立場の双方において，挿絵によるイメージの力は効果的に利用された。それによって，それぞれの意図はより強化された。しかし，「美女と野獣」が，『子どもの雑誌』から切り離され，独立の物語として出版され流布されていく過程で，ボーモン版に込められていた教訓的な要素は徐々に削られるとともに，教育としての読書イメージも同様に消失していった。

キーワード：美女と野獣，ボーモン夫人，読書像，挿絵本，子どもの雑誌

序　章

今日，様々なメディアを介して人々に親しまれている「美女と野獣」の物語は，その多くが，18 世紀中頃に出版されたボーモン夫人（Jeanne-Marie Leprince de Beaumont, 1711–1780）の同名の物語（La Belle et la Bête．以下，ボーモン版）をもとにしている。ボーモン夫人の原作が出版されたのは，ヨーロッパに啓蒙主義の思想が広く流布していた時代であった。1756 年，教育者であったボーモン夫人は，子どもたちが楽しみながら教養や徳を身につけられるように，歴史や地理，伝記，聖書，神話，動物や植物など幅広い分野の知識を対話形式で綴った『子どもの雑誌，あるいは分別ある家庭教師と最も優れた生徒たちとの会話（*Magasin des enfantes, ou dialogues entre une sage gouvernante et plusiers de ses élèves de la première distinction*）』[1]（以下，『子どもの雑誌』）を編集し発行した。

『子どもの雑誌』には，13 篇の物語が挿入された。ボーモン版「美女と野獣」（La Belle et la Bête）

政治経済学部・政治経済学科　論文受理日 2014 年 12 月 4 日

はそのなかの一話であり，16年前に書かれたヴィルヌーブ夫人（Gabrielle-Suzanne de Villeneuve, 1685-1755）の同名小説を子ども向けに再話化したものであった。13篇の物語は，いずれも勧善懲悪的な教訓物語である。さきに筆者は，これらを考察し，「美女と野獣」のみならず，『子どもの雑誌』のほかの物語にも読書啓発の強いメッセージが込められていることを明らかにした[(2)]。ボーモン夫人の思想は，読書は知性や心性を養う前提であり，子どもに適した教育書と好ましい読書環境を与えたいというもので，当時の新しい教育を模索する人々，とりわけ貴族階級や富裕層の人々の間に大いなる共感をもって受け入れられた。『子どもの雑誌』は，ロンドンで出版後，時をおかずしてフランスをはじめヨーロッパの各都市で刊行された。ボーモン夫人が没する1780年までに47版，19世紀の終わりごろには少なくとも130版を数えたという[(3)]。

『子どもの雑誌』の復刻版や改定版の出版が隆盛した背景には，絵画印刷や大量印刷の技術の発展があった。美しく細密な挿絵がつき新装された『子どもの雑誌』は，読者層をより拡大した。19世紀の『子どもの雑誌』には，書物や本棚，読書する人物などの挿絵もしばしば描かれた。「美女と野獣」の物語にも，主人公ベルの読書姿が挿絵としてつけられたものが少なくない。このような状況は，ボーモン夫人の教育的意図が，19世紀においても共感をもって受け入れられていたことの証とも言える。すなわち，「美女と野獣」に込められた読書啓発のメッセージは，挿絵が放つより強力なイメージとなってボーモン夫人没後も100年以上を生き続けたことになる。

一方で，子ども向けの本は，教訓を与えるためのものではなく，楽しみを与えるためのものであるという考え方も広まった。19世紀はじめには，「美女と野獣」は，子ども向けの廉価な小型本や，おとぎ話の小冊子など，様々な形態の本となって大量に印刷され始めた。子ども向けの廉価本にも，多くの絵が使われた。挿絵は，文字の読めない子どもの理解を助けるばかりでなく，物語を視覚的な楽しいものへと変えた。ハーンは，子どもの本から教訓的要素を取り除きたいと考える人々の手によって，「美女と野獣」は「お説教ではなくおとぎ話らしく書き換えられて」流布された，と論じた[(4)]。

このような状況をみると，19世紀は，「美女と野獣」にとって葛藤と相克の時代と捉えることができよう。子どもの本に対する二つの立場，すなわち教育を重視する立場と，娯楽を重視する立場の双方において，イメージの力は効果的に利用され，それぞれの意図はより強められていったものと思われる。しかし，様々なメディアを通して語られる現代の「美女と野獣」には，教訓性はほとんど感じられない。新しい「美女と野獣」は，どこまでも幻想的で美しい愛の物語となっている。つまりは，19世紀という技術と経済の発展期のなかで，この物語は教訓的物語から娯楽的物語へと転換したのである。

では，教訓性はどのようにして「美女と野獣」から消え去ったのだろうか。筆者は，特にボーモン夫人の読書観がこの物語からどのように抜けおちていったのかという点に関心を抱いている。「美女と野獣」の物語は，これまでも文学，教育学，心理学，民俗学，社会学，芸術など様々な分

野で研究がなされてきた。しかし，ボーモン版の底流にある教育的な読書観については，ほとんど言及されてこなかった。そこで，筆者はメディア史の視点から，19 世紀における書物の発展史のなかでこの問題を取りあげてみたい。

本研究では，19 世紀の挿絵本に描かれた様々な読書像の検討を通して，ボーモン夫人原作の「美女と野獣」の読書啓発メッセージがどのような変遷を遂げて消失したのかを考察する。

第 1 章　19 世紀における挿絵本の流行

19 世紀のヨーロッパでは，新しい印刷技術が開発され普及したことで，本や雑誌の挿絵分野においても新しい方法が浸透した[(5)]。1797 年にゼネフェルダー（Alois Senefelder, 1771–1834）が考案した石版画（リトグラフ）は，与えられた現本を細部にわたって忠実に再現できるため，19 世紀で最も人気のある装画製作法となった。まもなく，どの都市にも石版印刷者がいるようになり，手際よくどのような絵も石版に写し取った。商店広告，ワインのラベル，新聞雑誌の図版，本の挿絵，それに警察の手配書さえも，石版で作りだされたという。1826 年には，ドラクロワ（Eugène Delacroix, 1798–1863）がゲーテの『ファウスト』の挿絵を石版画で製作し称賛を得た。発行部数が非常に多いものに対しては，負荷に耐える堅固な組版が要求された。これには，もともと紙幣印刷において偽造を防ぐために 1800 年ごろ開発されていた銅版画（エングレービング）がふさわしい複製法とみなされ，1820 年ごろからは町の景観図，美術画の複製，本の挿絵などにも用いられるようになった。

印刷機は，グーテンベルク以来 350 年の間，いくつかの部分が木製から鉄製に変わり小型化された点を除くと，ほとんど変化はなかった。印刷工程は 15 世紀と全く同じで，1 冊の本を印刷するには多大な時間を必要とした。1800 年ごろ，こうした手仕事でされていた様々な工程が機械化され，1812 年には，ドイツで回転式の圧胴を持つシリンダー印刷機が開発された。これによって大部数印刷への道が開かれた。ロンドンの新聞社タイムズは，この新式機械を改良し印刷の性能をさらに 3 倍に高めた。1914 年には，タイムズ紙が史上初めて高速度印刷機によって印刷された。これは，印刷史のみならず新聞史上においても画期的な出来事といわれる。

18 世紀から 19 世紀にかけて，子どもの本の世界も大きな成長期を迎えた。子どもの本に挿絵が大きな役割を果たすようになったのもこの時代である。子どもの本の大量生産を求めたのは教育の普及であった。王と貴族による支配の時代から市民の時代へと推移し，新しい社会を担う子どもたちの教育が課題となった。学校制度が整備されると，統一的な学習書が必要とされ，また，子どもを楽しませる本の出版も盛んになった。

こうした動きのなかで，子ども向けの雑誌も発展期を迎えた。子ども向けの教育雑誌は，当初，貴族や富裕階級に的が絞られていたが，初等教育が普及し読書する子ども人口が増加するにつれ，

一般の子どもたちを対象として様々な雑誌が創刊されるようになった。その数は1832年から56年にかけて，55誌にのぼったという。ほとんどは半年から数年で休廃刊となるなか，残ったのは1832年創刊の『子ども雑誌（*Journal des enfants*）』などわずか数誌にすぎない[(6)]。

この時代の雑誌が力を入れたのは，挿絵の活用であった。挿絵を満載した一般雑誌が隆盛期を迎え，雑誌『シャリヴァリ（Cherivari）』は1832年以降，ドーミエ（Honoré-Victorin Daumier, 1808-1879）やガヴァルニ（Paul Gavarni, 1804-1866），その他多くの画家の1ページ大の石版画挿絵を連日掲載した。児童雑誌の連載小説にも，挿絵は欠かせぬ存在となった。『子ども雑誌』（1832）を成功に導いたのは，デノワイエ（Louis Desnoyers, 1805-1868）の連載小説「ジャン・ポール・ショパールの冒険（*Les aventures de Jean-Paul Choppart*）」であったといわれる。この物語の主人公は，従来のおとなしくよい子ではなく悪童である。『子ども雑誌』の最初の挿絵は，この波乱万丈の物語につけられた。デノワイエの文章と，グランヴィル（J. J. Grandville, 1803-1847）による挿絵とがあいまって，主人公の悪童ぶりや波乱万丈の物語が生き生きと描写された。子どもたちは魅了され，間をおかず単行本にもなり各国に広がっていった。随所に筋と関係ない教訓的な文章がはさまれるなど，従来の教訓的物語の伝統を受け継いでいる部分もあるが，生命力あふれるいたずら小僧や，彼を見せものにするサーカス団の悪党など，それまでの児童文学にはみられなかった登場人物が活躍する物語は斬新であり，これによって，放浪と冒険という新しいテーマがフランスの児童文学に持ち込まれた，と私市は述べている[(7)]。

第２章　挿絵本としての『子どもの雑誌』

2.1 『子どもの雑誌』の代表的な挿絵本

19世紀には様々な「美女と野獣」が出版されたが，その形態は主に次の二通りに分けられる。一つは，『子どもの雑誌』の一物語として出版される場合，もう一つは，『子どもの雑誌』から取り出され独立した物語として出版される場合である。前者は，19世紀前半に主として挿絵本形式（テキストが主で絵が従）で，後者は，19世紀後半以降主に絵本形式（絵が主で，テキストはその解説）で出版されている。

ここで取りあげる次の4点の『子どもの雑誌』挿絵本は，いずれも再版を重ね，長く広く読まれていた。

① 1843年，フォア（Eugénie Foa；1796-1852）の編集による版[(8)]（以下，フォア版）。
　挿絵はT・ゲラン（Th Guérin）。
　本稿では1847年豪華版[(9)]を使用した。

② 1844年，フルニエ（Ortaire Fournier；179?　-1864）の編集による版[(10)]（以下，フルニエ版）。

挿絵はアダマール（Auguste Hadamard；1823-1886）。

本稿では，鈴木豊の邦訳書『美女と野獣』の底本となった1859年版[11]を使用した。

③ 1859年，ランベール（J. -J. Lambert；1824-19？）の編集による版[12]（以下，ランベール版）。

挿絵はTelory。

④ 1865年，ブロック（Louise Swanton Belloc；1796-1881）の編集による版[13]（以下，ブロック版）。

挿絵はスタール（Gustave Staal；1817-1882）。

本稿では，1883年版にも言及した。

『子どもの雑誌』は，全体が27日に分けられ，毎日，女教師のところに貴族の娘たちがやってきて対話を行うという形式である。グレンツは，こうした「教訓対話」は，「理性的道徳的行為という教育目的を特別な仕方で達成するもの」で，強制ではなく自発的に教訓を引き出させるコミュニケーション方式であり，ボーモン夫人はその代表的な主張者であった，と指摘する[14]。ボーモン夫人は，『若い女性のための雑誌』[15]や『世に出る若い女性のための教え』[16]などにも同様の対話方式を採用している。学校制度が未整備の時代，『子どもの雑誌』は，様々な分野の知識を伝える教科書としての役割ばかりでなく，仲間や教師との対話を通して善や徳を学ぶ学校のような役割を果たしていた。各版の表紙絵や口絵は，演習形式の授業風景のようである（図１～図４）。フォア版やフルニエ版では教師が手に本を持ち，背後には書棚いっぱいの本がある（図１，図２）。ブロック版では，世界図の周りを子どもたちが囲み，傍には数冊の本がある（図４）。さらに，ブロック版では，標題紙の前にもページ大の口絵がある。教師の指さす紙面には歴史（Histoire）や物語（contes）などの文字が見え，それに見入る少年たちや，傍で本を読む少年たち，その横には，本を介して子どもたち

図１　フォア版　口絵

図２　フルニエ版　口絵

図３　ランベール版　口絵

図４　ブロック版　標題紙

図５　ブロック版　口絵

図６　ブロック版 1883年版
標題紙

の頭上に知識を降り注ぐ知恵の女神がいる（図５）。啓蒙主義的な時代のイメージを強く感じさせる一枚である。フランス国立図書館には，このブロック版以外に1883年のブロック版も所蔵されている。啓蒙的な口絵は，約20年後の1883年版にはない。標題紙の絵も，書棚や本や机や教師といった教育に直結するものから，物語「漁師と旅人（Le pêcheur et le voyagur）」の一場面に変わっているのが興味深い（図６）。

2.2　挿絵本『子どもの雑誌』の読書像

四つの版のなかで，全体を通じて挿絵が多いのはブロック版である。しかし，ブロック版の口絵や標題紙が読書や知識をイメージする教育的な挿絵であったのにくらべ，テキスト部分に添えられた挿絵には，読書像はほとんどない。あっても，1883年版でのカット絵程度である。ブロック版の挿絵には，物語の筋や展開を視覚的に楽しむことに重点があるように思われる。他版では，肖像画のような挿絵（図12）も見られるが，ブロック版の挿絵の人物絵は動的で，物語をドラマティックに印象づけるものが多い。

例えば，「美しい娘と醜い娘（Bellotte et Laideronnette）」を見てみよう。これは，美人だが享楽的な姉娘と，器量が悪いが読書によって知性を磨き幸せになる妹娘の物語である。姉は地位や財産や表面の美しさを追い求め，ついには夫にも見放されるが，知恵のある妹に助けられ最後は幸せをつかむ。フォア版の挿絵では，夫に去られて失意のなかにいる姉と，不幸を乗り越えるため読書をして知性を磨くよう助言する妹の姿が描かれている（図７）。フルニエ版では，読書する妹と鏡の前の姉の姿が描かれている（図８）。ランベール版では，書棚とたくさんの本が置かれた机の前で，熱心に読書する妹の姿が描かれている（図９）。ランベール版は全体を通して読書の挿絵が少なく，「美しい娘と醜い娘」のなかのこの挿絵が唯一の読書像である。三つの版に共通するのは，ボーモン版

図７　フォア版「美しい娘と醜い娘」p. 393

図８　フルニエ版「美しい娘と醜い娘」p. 322

図９　ランベール版「美しい娘と醜い娘」p. 357

図 10　ブロック版「美しい娘と醜い娘」p. 375

の底流となっていた教訓的な読書像である。読書啓発のメッセージは，イメージを伴ってより強く読み手に訴えかけてくる。

一方，ブロック版に描かれているのは，夫に見放され打ちひしがれる姉の姿である（図 10）。他版の挿絵から滲み出る読書の教育的役割，つまり，読書によって心の豊かさや強さを養いよりよい人生を築くというボーモン流の読書観は，ここには描かれていない。ブロック版では，物語の一つの山場である姉の不幸を悲劇的に描き，ドラマ性をより高めているようにみえる。ブロック版は，四つの版のなかで出版年が最も新しい。教訓性より物語性が重視されているのはそのためもあるのだろうか。

四つの版のうち，読書の挿絵が最も多いのは，フルニエ版である。「美女と野獣」や「美しい娘と醜い娘」の挿絵のほかに，例えば，木陰で読書する少女（p. 1），絵本（のように見える）を大きく広げて読む子どもと後ろからそれに見入る子ども（p. 158），蓋つきの本箱の前で歴史の本を取り出して読む少女（p. 354），父親らしき人に新聞を読み聞かせる女性（p. 375），などである。

「不運つづきの娘（Aurore et Aimée）」は，町で享楽的な生活を送っていた娘が，自然のなかで読

書や仕事を通して自分の生き方を変化させ，それまでの虚しい生活から脱却し，幸せな人生をつかむという物語である。家事や一日の労働をすませた主人公オーロール（夜明けという意味）が田舎の自然風景のなかで読書する姿が印象的である（図11）。ボーモン夫人は，子どもの教育の場として町と田舎をしばしば対比させている。この物語も，町の生活，すなわち華美で享楽的で虚栄心に満ちた欺瞞の生活と，田舎の生活，すなわち自然で勤勉で実直な人間らしい生活が対比的に描かれている。18世紀の子ども観や教育観がこの絵のなかにもみて取れる。フルニエ版では，この挿絵を物語の一場面で使用するだけではなく，標題紙を飾る絵としても使っている。

図11　フルニエ版の標題紙および「オーロール」p. 140

第３章　挿絵本『子どもの雑誌』における「美女と野獣」の読書像

挿絵つきの物語は，テキストのみの場合とくらべるとそれだけでより親しみやすさが増す。しかし同時に，挿絵の場面や描写の仕方によって訴えるものが違ってくるようにもみえる。図12，図13，図15は，それぞれフォア版，フルニエ版，ブロック版の「美女と野獣」の冒頭部分である。ランベール版には，冒頭部分に挿絵がないため次ページを示した（図14）。各版の「美女と野獣」につけられた挿絵は，フォア版10枚（うち読書像は２枚），フルニエ版３枚（うち読書像は１枚，野獣の城で勉強をする姿が１枚），ランベール版２枚（うち読書像は０枚），ブロック版８枚（うち読書像は０枚）である。フォア版とフルニエ版は，読書姿がそれぞれ２枚ずつある。物語の冒頭部分では，ベルが美しく優しい娘であり，読書好きで勤勉な日常を送る様子が記述される。両版の１枚目の読書絵はまずこの場面に挿入された（図16，図18）。

フォア版とフルニエ版の２枚目の読書絵は野獣の城のなかの場面である。フォア版では，恐怖と緊張のなかで図書室を見つけたベルが野獣の心遣いを知って元気づけられるという場面（図17）であり，フルニエ版では，野獣の城に囚われたベルが勉強をして過ごすことで孤独から解放されるという場面である（図19）。フルニエ版は，この部分に，ボーモン版には記述されていなかった以下の文章を追加している（追加箇所に下線）。

> ベルは，ほとんど一日じゅう時間を勉強に打ち込んで，平穏な気持ちで，三カ月をこの宮殿で過ごしましたが，その孤独な時間もずいぶん短いように感じられました（Belle passa trois mois dans ce palais aves assez de tranquillité, consacrant à l'étude la plas grande partie de son temps, ce qui lui faisait paraître les heures de solitude beaucoup plus courtes.）[17]。

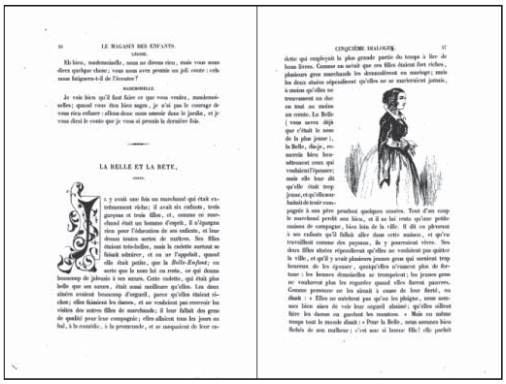

図 12　フォア版「美女と野獣」冒頭 pp. 46–47

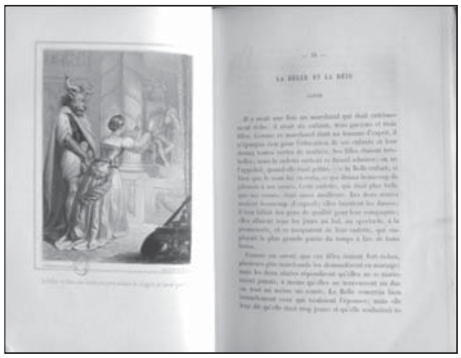

図 13　フルニエ版「美女と野獣」冒頭 pp. 30–31

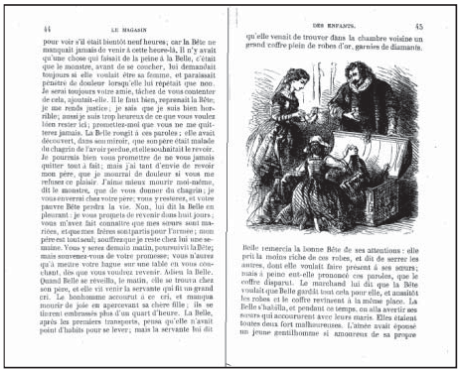

図 14　ランベール版「美女と野獣」pp. 44–45

図 15　ブロック版「美女と野獣」冒頭 pp. 56–57

フルニエ版では，他の版とくらべて読書する人物の挿絵が全体的に多いことや，ボーモン版にはなかった記述を追加するなど，読書啓発のメッセージを一層強めているように思われる。

反対に，ランベール版「美女と野獣」には読書の挿絵はない。ランベール版の特徴としては，テキスト部分の短縮が随所にみられることである。女教師と子どもたちとの対話部分はもちろん,「美女と野獣」のテキストにも省略箇所がある。例えば，ベルの田舎での過ごし方を描写する部分では，以下の部分が削除された。

> 仕事がすむとベルは読書をしたり，クラブサンを弾いたり，あるいはまた糸を紡ぎながら歌を歌ったりして過ごしました（Quand elle avait fait son ouvrage, elle lisait, elle jouait du clavecin, ou bien elle chantait en filant）[18]。

図16　フォア版「美女と野獣」p. 48

図17　フォア版「美女と野獣」p. 55

図18　フルニエ版「美女と野獣」p. 32

図19　フルニエ版「美女と野獣」p. 40

図20　ブロック版「美女と野獣」p. 75

ボーモン版が出版された18世紀中頃は，書物が普及し始め，貴族階級や富裕層の子どもたちの教育手段として読書が推進された時代である。楽器を奏でること，歌を歌うこと，糸を紡ぐことは以前から女性のたしなみとして重視されていたが，この時代には読書も望ましい趣味の一つとみなされるようになった。ランベール版で削除されたこの部分は，少女たちにそうした教養や技能を身につけさせたいと願うボーモン夫人の思いが表れているような部分であった。

ほかにも，ランベール版では，城で図書室を見つけたベルが野獣の心遣いに初めて触れる大事な場面で，以下の記述が削除された。

> 「私を退屈させまいという心づかいなんだわ」とベルはつぶやきました。そしてこんな考えが浮かびました。「もし私がたった一日しかここにいないとしたら，こんな立派な支度をするわけがない。」こう考えるとベルの気持ちは元気づけられました。ベルは書棚を開けました（« On ne veut pas que je m'ennuie, » dit-elle tout bas ; elle pensa ensuite : « Si je n'avais qu'un jour à demeurer ici, on n'aurait pas fait une telle provision. » Cette pensée ranima son courage. Elle ouvrit la bibliothèque, et）[19]。

ブロック版では，他の版とくらべ全体的に挿絵が多い。ブロック版の口絵や標題紙は教育的イメージの強いものであったが，文中の挿絵では必ずしもそうではない。ブロック版では，物語が大きく展開するきっかけとなる場面を描くことで，物語の劇的な効果を昂めているような印象を受ける。ブロック版の「美女と野獣」では８枚の挿絵があるが，フォア版やフルニエ版に見られたようなベルの読書姿は１枚もない。ブロック版で目を惹くのは，鏡のなかに弱り切った父親の姿を見つけ驚くベルの姿である（図20）。一瞬の心の動揺を写し取るような描き方で，他版の読書の場面にくらべ，より強い印象を与えている。

これら四つの版は，テキスト部分の変更や挿絵の用い方などで，主張の強さはそれぞれ異なりはするが，『子どもの雑誌』全体としてみればそれほど大幅な改編はなく，いずれもボーモン夫人の意図した教育的要素はそのまま継承したと言える。

第４章　単行本化された『美女と野獣』

4.1　エピナル版画

18世紀は，啓蒙思想の影響を受けて多くの子ども向けの本が生み出された。しかし，これらを享受できたのは，主に貴族や富裕層の市民たちであった。他方，貧しい子どもたちに向けて，小型で粗末な数ページの冊子が出版され安価で販売されるようになった。フランスの「青本（livre bleu）」やイギリスの「チャップブック（chapbook）」に代表されるそうした小型廉価本は，識字率の低い農

村部の子どもたちや都市部の中産階級の子どもたちも本を楽しめるように，多くの絵が使用され，行商人によって地方の小都市や村々に流布された。

フランス東北部，現在のボージュ県エピナル町では，物語を一枚ものの版画にして大量に出版した。今日では，それらを「エピナル版画（Imagerie d'Épinal）」と呼んでいる。紙面中央の大きな絵とそれを囲む物語で構成される形式や，一枚に複数の場面（以下，コマ）の絵を載せその下に短い筋書きをつける形式などがある。一般的なのは，コマが4枚4列に配置される形式である。ペルラン（Jean-Charles Pellerin, 1756-1836）は，多くの職人を使って18世紀から19世紀中頃までエピナル版画を大量に出版した。ここでは，「美女と野獣」の二つのエピナル版画を比較してみよう。

ボージュ資料館（Archives départementales des Vosges）には，ペルラン工房出版のエピナル版画[20]（出版年不明　以下，ボージュ版）が所蔵されている。「美女と野獣」とペローの「三つの願い」と合わせ16コマのものである（図21）。上段12コマが「美女と野獣」，下段4コマが「三つの願い」である。最初のコマには，机に複数の本を置いて読書するベル，それを横目で眺める着飾った二人の姉たちの姿が見える。絵の下につけられた物語のテキストは，次のように記される。

> むかし，お金持ちの商人がいました。商人には3人の娘がいました。ベルと呼ばれる末娘は，姉さんたちが自分たちの楽しみのことばかり考えている間，一生懸命勉強に励みました[21]。

フランス国立図書館には，ボージュ版とはまた別の「美女と野獣」のエピナル版画[22]（以下，BNF版）が所蔵されている。1846年に，同じペルラン工房から出版されたものである。BNF版は，ペローの「長靴をはいた猫」と合わせて16コマとなっている（図22）。上段から10コマが「美女と野獣」，下段の6コマが「長靴をはいた猫」である。ここにはベルの読書姿はない。絵につけられた物語部分も，わずか2行のテキストできわめて簡素である。最初のコマには次のように記される。

> 商人には3人の娘がいました。末娘はいちばん美しく優しい心を持っていました。姉さんたちはそれを妬ましく思うのでした（Un marchant avait trois filles ; la plus jeuno etait la plus belle et la plus aimable, ses soeurs en etaient jalouses）[23]。

ボージュ版は，BNF版より2コマ多い。一つは商人が野獣の城の寝室で休もうとする場面（4コマ目），そしてもう一つはベルが野獣と夕食をともにする場面（9コマ目）である。これらのコマの存在はボージュ版の物語にやや詳しさを加えるだけで，BNF版の物語と大きな違いを生じさせるものではない。これらの2コマと最初の1コマ以外は，両版のコマは全く同じ場面が同じ構図で描かれている。つまり，二つのエピナル版画の大きな違いは，物語の発端となる最初の場面（1コマ目）ということになろう。子どもの本に対する教育と娯楽という二つの立場がこのようなところに

図 21　エピナル版画ボージュ版「美女と野獣・三つの願い」

図 22　エピナル版画 BNF 版「美女と野獣・長靴をはいた猫」

も現れたのだろうか。同時期における同出版者の簡略な物語のなかにも，ボーモン版の読書観をそのまま継承したものと，削り落としたものがあることは興味深い。

しかし，いずれにしろ，ボーモン夫人が物語の要所要所に隠し味のように入れ込んだ「読書のすすめ」は，物語が文で綴られるから可能であったのではないだろうか。物語が絵によって進み，文がその説明的役割となるとき，隠喩的効果を同じように描出できるかやや疑問である。限られた紙面のなかではなおさらである。一方，物語の大筋は絵を通して十分に楽しむことができる。テキストを短縮し分量を減らすことができれば，それだけ費用も抑えられる。そうして，物語の起承転結だけが取り出され流布されたのではないだろうか。ボージュ版でも，ベルの読書好きで勤勉な娘としての描写は最初だけで，それが物語の後の展開に直接関連付けられてはいない。絵本の物語性を重視しようとすれば，ボーモン版の読書観は切り捨てられやすい要素であったと思われる。

4.2　チャップブック

チャップブックとは，一枚の紙の裏表に印刷し，それを折りたたんで 8 ページから 32 ページ程度のポケットサイズの本にしたもので，主に 17 世紀から 19 世紀にかけてイギリスで広まった。木版画による挿絵がついているものが多い。チャップマンと呼ばれる行商人が，都市部だけではなく遠く離れた村々へ売り歩いた。地方の小さな出版社にも簡単に作ることができたため，膨大な数のチャップブックが出版されたと推測されている。しかし，値段が安く消耗品とみなされていたため

残存数は少なく，その全容は解明されていない[24]。

ここでは，1818年ごろにグラスゴーのラムズデン（James Lumsden）が出版した版[25]（以下，ラムズデン版）と，1840年ごろにデブンポートのキーズ（John Keys）が出版した版[26]（以下，キーズ版）をくらべてみる。使用された挿絵は少なく，ラムズデン版は6枚，すべて口絵である。価格は6ペンスと表示されている（図23）。キーズ版では，表紙と同じ図柄の口絵のみで文中の挿絵はない（図24）。両版ともに読書の挿絵はない。テキストの部分を見ると，ラムズデン版はボーモン版をほぼ忠実に翻訳している。読書に関する場面，例えば，ベルが「ためになる本（good books）」を読んで過ごす場面（p. 6），田舎での一日を家事と読書などで過ごす場面（p. 8），図書室を見つけ元気を取り戻す場面（p. 27）もボーモン版の記述通りである。

キーズ版も，ボーモン版をもとにしているが，全体を通して細かな記述が省かれた。例えば，「美女と野獣」の前半部分では，姉たちと対比させてベルの優しさや堅実さを描き，そうした人格を育んだのは読書であると示唆する部分であるが，それらの箇所は短縮された。また，家に戻ったベルが姉たちの策略で城へ帰れなくなる場面や，約束を守れなかったことを後悔する場面は大幅に削除され，話がつながらなくなった部分もある。読書に関する記述も微妙に変更された。例として，「美女と野獣」のなかの読書に関する最初の場面を二つの版でくらべてみよう。

はじめに，ボーモン版に忠実なラムズデン版の記述である（下線は筆者）。

> 姉さんたちは，毎日，楽しいパーティーやダンスや芝居見物や音楽会に出かけて，一日の大半の時間をためになる本を読んで過ごしている末の妹をばかにしておりました（They went out every day upon parties of pleasure, balls, plays, concerts, and laughed at their youngest sister, because she spent the greatest part of her time in reading good books.）[27]。

同じ場面の，キーズ版での記述である（下線は筆者）。

> 姉さんたちは，毎日，ダンスや芝居見物や散歩に出かけ，本を読んだり，そのほかの役立つ趣味をするなどして時間を過ごしている末の妹をいつもばかにしておりました（They went every day to balls, plays, and public walks, and constantly jeered their youngest sister for spending her time in reading, or other useful and improving employments.）[28]。

全般的に，読書に関する記述はラムズデン版にくらべ，キーズ版ではやや軽さがみられる。野獣の城でベルが図書室を見つける場面では，それによって元気を取り戻すベルの心の動きを，ラムズデン版はボーモン版と同様に丁寧に描写したが，キーズ版では簡略な記述に変わった。

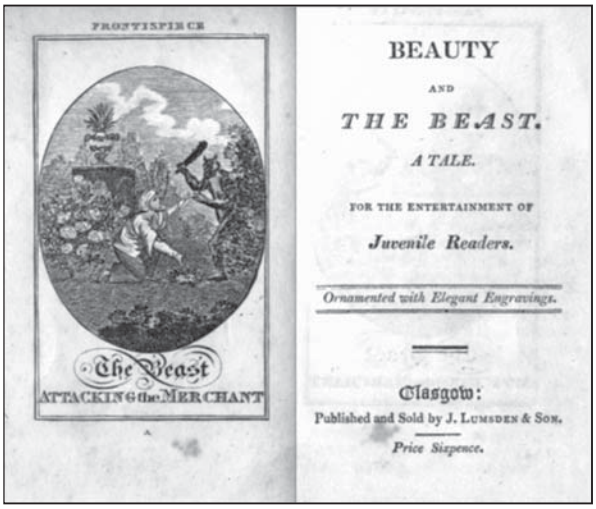

図 23　ラムズデン版　口絵・標題紙

図 24　キーズ版　表紙

4.3　詩歌に脚色された版

19 世紀初期の代表的挿絵本の一つとして，1811 年出版された，ラム（Charles Lamb；1775–1834）の詩『美女と野獣，もしくは荒々しい姿に宿る優しい心，詩で語る昔話（*Beauty and the beast : or a rough outside with gentle heart, a poetical version of an ancient tale*）』[29]（以下，ラム版）がある。詩は２行連句の形式で，大きさは 19 世紀の多くの版と同じ 18 センチである。1887 年には，ラング（Andrew Lang, 1844–1912）の解説つきで復刊もされた。本稿ではそれを使用している。

挿絵は口絵を含み８枚あり，それぞれに次のようなタイトルがつけられている。

①裕福なときのベル Beauty in her Prosperous State，②貧しくなったベル Beauty in a State of Adversity，③摘まれたバラ The Rose Gathered，④魔法の城のベル Beauty in the Enchanted Palace，⑤ベルが図書室を訪れる Beauty Visits her Library，⑥ベルは姿が見えない楽士たちの音楽を楽しむ Beauty Entertained with Invisible Music，⑦野獣のもとに戻らなかったことを嘆く The Absence of Beauty Lamented，⑧解かれた魔法 The Enchantment Dissolved。

これら８枚の挿絵のうち，１枚目の挿絵には読書するベルの姿がある（図 25）。この挿絵は標題紙前の口絵であるが，これまでみてきた通り，この場面はベルの優しい性格と勤勉な日常を読者に知らせる冒頭部分である。しかし，詩中にはベルが読書をする記述はなく，厳密にはテキストのどの部分とも対応はしていない。テキストには，ベルの優しさや慈悲深さが謳われる。父親の破産のため田舎暮らしになった場面では，家族のために朝早くから家事をするベルの姿が謳われる。また，ボーモン版では，家事をすませたベルは「読書をしたり，クラブサンを弾いたり，また糸を紡ぎながら歌を歌ったりして過ごす」が，ラム版では「歌を歌って過ごす」。

図25　ラム版　口絵

図26　ラム版　26ページ後の差込図

そして一日の仕事をすませてしまうと，陽が昇るまで歌を歌って過ごすのでした。働けば働くほどますます楽しくなるのでした（And when the task of day was done, Suspended till the rising sun, Music and song the hours employ'd, As more deserv'd, the more enjoy'd ;）[30]。

5枚目の挿絵には，大きな書棚に近づくベルの姿が描かれている（図26）。ラム版で本（book）が出てくるのはこの場面のみであり，野獣の城で図書室を見つけ元気づけられるベルの様子は詳しく描かれない（But, wishing still a nearer view, Forth from the shelves a book she drew, In whose first page, in lines of gold, She might heart-easing words behold : ）[31]。ラム版における本の役割は，「ここではあなたが女王様，何でも思いのままに」という野獣の思いやりを示すだけのようにも思われる。結局ラム版では，読書のイメージは詩歌の言葉からではなく，これら2枚の挿絵によってのみ伝えられ印象づけられる。ハーンは，ラム版の物語の筋立ては，ボーモン版のものであるが，細部の余分なものが削られ要約されたことで，「説教臭さが強いにもかかわらず，テンポは速く，言葉は力強く，効果的に」歌い上げられた，と述べている[32]。

終　章

18世紀における啓蒙主義思想の広がりのなかで書かれた，ボーモン夫人の『子どもの雑誌』は，19世紀の新しい挿絵技術によって魅力的な図像を加え，普及をさらに拡大した。現残する多様な版は，この書物が出版後およそ一世紀半にわたり多くの人に読み継がれたことを示している。ボーモン版に込められた読書啓発のメッセージも，視覚的なイメージを伴ってより強まったと思われる。一方，同時期は，子どもの本にもっと楽しみが必要であるとの考え方も台頭した。印刷技術の進歩

を追い風に，『子どもの雑誌』から切り離された「美女と野獣」は，独立した一つの物語として子ども向けの廉価な小冊子や絵本となり大量に流布された。ボーモン版に込められていた教訓的な色彩はその過程において削られていった。教育としての読書イメージも同様に消失した。『子どもの雑誌』の一話であるうちは大幅な改編は難しいが，単一の物語であれば改編は比較的容易である。「美女と野獣」から読書像が消失したのは，そうした出版事情も一因かと思われる。

1843 年に出版されたサマリー（Felix Summerly, 1808–1882）編集による版[33]（以下，サマリー版）には，編者自身の次のような序文がついている。

> 「美女と野獣」の現代版は，「現代の作法」に合うように修正されたために，教育や結婚などについての教訓だらけになっている。これは退屈な論理的蓋然性のなかに何でも押し込めようとする無駄な努力である。その上，物語の主な出来事はベルの姉たちやその夫たちについてのどうでもよい瑣末な描写のなかにうずもれて見えなくなっている。「善良夫人」[34] が何と言おうと，これらすべてを取り除き，この伝説をお説教でなくおとぎ話らしく書き換えてもかまわない，と私は思っている[35]。

サマリー版には，本も，図書室も，読書するベルの姿も描かれなかった。勤勉で読書好きな優しいベルは，サマリー版では草花を愛する優しいベルへと変わっている。田舎家の庭の描写も詳しくなされ，城での囚われの日々も，ベルは美しい庭によって元気を取り戻すという設定に変わった。しかし，筆者には改編された物語はかえって内容が散漫で，それまで以上に楽しいものになったようには思えない。ハーンも「サマリー氏自身も，先駆者たちが加えた余分なものを取り除いたあとで，彼なりに印象の薄い細部描写を繰り広げている」と同様の見解を示したが，一方では，「ともかく彼は問題点を認識している」[36] と述べ，子どもの本を楽しみ重視の方向へおし進めたことを評価した。

しかし，いったん消え去ったにもかかわらず，現在の「美女と野獣」のなかに再び読書するベルの姿を見出すことがある。それは，18 世紀のボーモン夫人の読書像と似てはいるが，同じではない。今日，テレビのニュース番組やトーク番組などの背景に映し出される本棚を見て，読書啓発を促される視聴者はほとんどいないだろう。ディズニーのアニメ映画が公開されて以降，それをもとにした児童書や絵本も作られるようになった。なかには，さらに脚色されボーモン版とは全く異なる読書像も見受けられる。本稿を執筆する間にも，ヴィルヌーブ版をもとにした新しい「美女と野獣」の映画が封切られた。それぞれの時代で，「美女と野獣」にどのような読書像が描かれていくのか今後も注視していきたいと思う。

本稿への図版転載を許諾くださった各機関や方々に謝意を表します。

なお，次の図版の著作権は執筆者である若松昭子に帰属します。図2，図8，図11，図13，図18，図19。

注・引用

(1) *Magasin des enfantes, ou dialogues entre une sage gouvernante et plusiers de ses élèves de la première distinction*. Londres, J. Habercorn, 1756. 4t.

(2) 拙稿「『美女と野獣』にみる18世紀の読書観―ボーモン夫人の原作を通して―」『聖学院大学論叢』第26巻第2号　2014　pp. 173-188

(3) Biancardi, Élisa., *La Jeune Américaine et les contes marins (La Belle et la Bête); Les Belles solitaires. Magasin des enfants (La Belle et la Bête) Madame de Villeneuve. Madame Leprince de Beaumont*. édition critique établie par Élisa Biancardi.（Bibliothèque des génies et des fées ; 15）Paris, H. Champion, 2008, 1634p. 引用は p. 935

(4) Hearne, Betsy., *Beauty and the beast : visions and revisions of an old tale*. Chicago, University of Chicago Press, 1989. 247p.（ベッツィ・ハーン『美女と野獣：テクストとイメージの変遷』田中京子訳　新曜社, 1995. 446p. 引用は p. 77）

(5) 19世紀の印刷技術の発展については主として次の文献を参考にした。
Presser, Helmut., *Das Buch vom Buch*. Bremen, Carl Schünemann, 1962. 240p.（ヘルムート・プレッサー『書物の本：西欧の書物と文化の歴史：書物の美学』轡田収訳　法政大学出版局, 1973. 377, 58p.）

(6) 私市保彦『フランスの子どもの本：「眠りの森の美女」から「星の王子さま」へ』白水社　2001 287p. 引用は p. 74.　また本稿では，ボーモン版の『子どもの雑誌』*Le Magasin des enfants* と区別するため，*Le Journal des enfans* は，『子ども雑誌』の訳語を用いた。私市の解説では，「雑誌」の呼称には，「ジュルナル」と「マガザン」の二つがあり，前者は，日誌や日刊の意味が拡大し定期刊行物をさし，後者は，倉庫の意味から転じ様々な記事を集めたものをさす。因みに，ボーモン夫人の『子どもの雑誌』は，『子ども文庫』の別訳がある。

(7) 同掲書，p. 78

(8) Mme Leprince de Beaumont, *Le magasin des enfants ： revu et augmenté de nouveaux contes*. Rev. by Mme Eugénie Foa ; illust. by Th. Guérin. Paris, C. Warée, 1843. 1 vol.（496 p.）（フランス国立図書館蔵　請求記号：4-R-6352　デジタル版：NUMM-6580557）
フォアは，フランス，ボルドー生まれで，プロの著作家として最初のユダヤ系女流作家である。『子ども雑誌（*Journal des enfants*）』の創刊メンバーの一人であり，『令嬢雑誌（*Journal des demoiselles*）』や『子どもの日曜日（*Dimanche des enfants*）』の編集にもたずさわり，多くの作品を残した。挿絵はT・ゲラン（Th Guérin）が描いた。1847年に出版された豪華版では，ゲランに加えて，MM. Gavarni, Adolphe Mouilleron（1820-1881）, E. Watier などの画家も新たに加わった。

(9) Mme Leprince de Beaumont, *Le Magasin des enfants*. 2nd ed. by Mme Eugénie Foa. Paris, Libr. Pittoresque de la Jeunesse, 1847, 452p.（バルセロナ学術図書館蔵（Barcelona Athenaeum Library）請求記号：17DI）

(10) Mme Leprince de Beaumont, *Le Magasin des enfants*. Rev. by Ortaire Fournier. Paris, A. Desesserts, 1844, 447p.（フランス国立図書館蔵　請求記号：R-23451　画像は筆者撮影）
多くの児童書を残したフルニエは，同年1844年に，セルバンテスの原作の子ども向けに編集し『ドン・キホーテ物語（*Histoire de Don Quichotte racontée à la jeunesse*）』挿絵本をフォア版と同じ出版社（C. Warée）から出した。フルニエ版『ドン・キホーテ物語』の挿絵は，フォア版『子どもの雑誌』の挿絵家であったTh Guérin が担当した。『子どもの雑誌』の復刊ラッシュと，挿絵本の熾烈な出版競争の状況が垣間見える。フルニエ版『子どもの雑誌』の挿絵を描いたアダマールは，『スイスのロ

ビンソン（*Der Schweizerische Robinson*）』の挿絵家としても知られる。アダマールの挿絵がついた『スイスのロビンソン』は，1860 年から 1873 年まで何度も版を重ねた人気作品となった。

⑾ Mme Leprince de Beaumont, *Le Magasin des enfants*. Rev. by Ortaire Fournier. Paris : J. Vermot, ［1859］, 396 p.（フランス国立図書館蔵　請求記号：R-23451　画像は筆者撮影）
邦訳書は，『美女と野獣』鈴木豊訳　改定版　角川書店　1992　274p.

⑿ Mme Leprince de Beaumont, *Le Magasin des enfants*. New ed. by Mme J. -J. Lambert. Paris, Delarue, ［1859］or［1860］, 428p.（フランス国立図書館蔵　請求記号：Y2-48527　デジタル版：NUMM-5619585）　目録記述は 1859 年，原本印字は 1860 年。

⒀ Mme Leprince de Beaumont, *Le Magasin des enfants, ou Dialogues d'une sage gouvernante avec ses élèves*. New ed. by Louise Swanton Belloc. Paris, Garnier frères, 1865, 2 vol.（フランス国立図書館蔵　請求記号：R-23466-1, R-23466-2　デジタル版：NUMM-131989, 131990））
ブロック版 1883 年版　Paris, Garnier frères, ［1883］. 1 vol.（xv, 523p.）（フランス国立図書館蔵　請求記号：R-5336　デジタル版：NUMM-6577481）

⒁ Grenz, Dagmar., *Mädchenliteratur : von der moralisch-belehrenden Schriften im 18. Jahrhundert bis zur Herausbildung der Backfischliteratur im 19. Jahrhundert*. Stuttgart, J. B. Metzlersche Verlagsbuchhandlung, 1981, 282p.（ダグマル・グレンツ『少女文学：18 世紀の道徳的・教訓的読み物から 19 世紀における「小娘文学」の成立まで』中村元保・渡邊洋子訳　同学社　2004　420p.　引用は pp. 56-60）

⒂ *Magasin des adolescentes, ou dialogues d'une sage gouvernante avec ses élèves de la première distinction*. Londres, J. Nourse, 1760. 4t.

⒃ *Instructions pour les jeunes dames qui entrent dans le monde et se marient, leurs devoirs dans cet état et envers leurs enfans*. Londres ［Lyon］, 1764, 4 vol.

⒄ 前掲書⑾，p. 41

⒅ 前掲書⑶，p. 1019

⒆ 前掲書⑶，p. 1024

⒇ 石澤小夜子『フランスの子ども絵本史』大阪大学出版会　2009　424p. 転載は p. 11

(21) 印刷不鮮明のためところどころ判読できない文字があるため原文はつけていない。一部は文脈から筆者が補った。

(22) *La Belle et la Bête :* ［*conte*］. *Le Chat botté :* ［*conte*］. Epinal, ［estampe］. Fabrique de Pellerin, Imprimeur-libraire à Epinal,［1846］. 1 est., 40x32cm.（フランス国立図書館蔵　請求記号：LI-59（3）FOL，デジタル版：IFN-6938052）

(23) 同掲書，左上第 1 コマ

(24) チャップブックについては，以下の文献を参照した。
三宅興子『イギリスの絵本の歴史』岩崎美術社　1995　195p.
三宅興子『もうひとつのイギリス児童文学史』翰林書房　2004　313p.

(25) *Beauty and the Beast : a tale for the entertainment of juvenile readers*. Glasgow, J. Lumsden & Son, ［1818-1825］, 46p.（挿絵 6 枚，白紙 5 枚含む）, 14cm.（カリフォルニア大学図書館蔵　請求記号：LAGE565727　デジタル版：OL7161114M）　ページ番号の間違いあり。原本印字では 48p.

(26) *The history of Beauty and the Beast*. Devonport, Samuel & John Keys, ［1840-45］. 12p. 18cm.（no illus.）（マギール大学図書館蔵　請求記号：PN970 K49 H5）。

(27) 前掲書(25)，p. 25

(28) 前掲書(26)，p. 9

(29) Lamb, Charles., *Beauty and the Beast : or a rough outside with gentle heart, a poetical version of an ancient tale*. London, M. J. Godwin, ［1811］, 1vol. 使用したのは，*Beauty and the Beast*. Intr. by Andrew Lang. London, Field & Tuer, ［1887］. 42p.（トロント大学図書館蔵　請求記号：BO-8005

（LC-No：PR4862-B4-1887）デジタル版：OL7106286M）

⑳　同掲書，p. 4

㉑　同掲書，p. 26

㉒　前掲書(4)，p. 85

㉓　Summerly, Felix. *The Traditional faëry tales : of Little Red Riding Hood, Beauty and the Beast, & Jack and the beanstalk*. London, Joseph Cundall, 1843. 23p. ; iv, 35p. ; 32p. ;［12］leaves of plates.（カリフォルニア大学図書館蔵　請求記号：LAGE1019010 デジタル版：OL14045736M）「赤ずきん」「ジャックと豆の木」との合冊。前掲書(4)には *Beauty and the Beast : an entirely new edition*. London, Joseph Cundall, 1843. 35p. の記載がある。同年，同出版者ということから合冊は後の人の手によったとも考えられるが，独立の本としての初版を確認できなかったため，本稿では入手することができた『おとぎ話集 *The Traditional faëry tales*.』の一話として取り扱う。

㉔　『子どもの雑誌』の登場人物で，全体の進行役でもある女教師の名前。ボーモン版への明らかな批判である。ボーモン版では Mademoiselle Bonne，サマリー版の英訳は Mrs. Affable。
サマリー序文の邦訳では前掲書(4)を参考にした。

㉕　前掲書㉓，*Beauty and the Beast*., p. iv

㉖　前掲書(4)，p. 77

The Image of Reading in "Beauty and the Beast" and Its Disappearance : Transition in Illustrated Books of the 19 th Century

Akiko WAKAMATSU

Abstract

This study will explore, through examination of images of reading in illustrated books of the 19th century, how the message of Madame Beaumont's original "Beauty and the Beast", which enlightened and inspired reading, changed. The conclusion of this paper is as follows :

In the 19th century there was a conflict, in children's books, between writing for educational purposes (didacticism) and writing mainly to entertain. Illustrations in picture books of the time were used effectively and powerfully for both education and entertainment and strengthened the messages.

However, due to "Beauty and the Beast" being excerpted from *Le Magasin des enfants* and published as a single book, the didactic quality of Madame Beaumont's original story was dissipated and ultimately lost. During that process, the educational image of reading in the original text of Madame Beaumont's "Beauty and the Beast" gradually disappeared.

Key words: "Beauty and the Beast", Madame Leprince de Beaumont, *Magasin des enfants*, the image of reading, illustrated books